

令和3年度 鳥取県立倉吉総合看護専門学校自己評価結果の概要

令和4年10月現在

項目 平均得点 (5点満点)	主な取組	学校関係者評価委員会での改善の提案及び今後の課題
①学校経営 4.0	<p>令和3年度も学校と寮で感染予防対策を実施し、各学年が卒業・進級できた。</p> <p>令和4年度新カリキュラムとなるため、助産学科と第1看護学科の教育内容を検討し、講師依頼、教育課程変更承認申請を行い、承認された。</p> <p>第1看護学科は、新カリキュラムで3つのポリシーを明確にし、学科の独自性を見出した。助産学科は地域活動を実習の一部として行い、学科の特色のある実習を展開している。</p> <p>学校関係者運営委員会を、学校にて開催ができ、委員の方と意見交換が実現し、改善や対策を確認できた。</p>	<p>学校関係者評価委員会での改善の提案及び今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産学科、第1看護学科新カリキュラム改正に向け、教育理念、教育目標、教育課程の見直しを行い、改正に向け努力ができた。 ・看護職の地域活動を実習で行うことは、看護職の広がる働く場の理解と、学校の魅力につながった。
②教育課程・教育活動 3.6	<p>助産学科、第1看護学科は令和4年度新カリキュラムになるため、教育理念、教育目標と科目との整合性を図り、地域性を踏まえた具体的な教育内容の検討と講師を依頼し、承認された。カリキュラム改正に伴い成績査定基準を令和4年4月1日付で改正した。</p> <p>第1看護学科では卒業時の到達度について2年間調査を実施し、令和4年度新カリキュラム改正に伴い、ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを作成した。</p> <p>第2看護学科は令和5年4月に新カリキュラム改正となるため検討をすすめている。また現行カリキュラムの学生には、社会人基礎力チェックリストを活用し、最高学年後半には成果がみられる。</p> <p>コロナの影響を受けR3年度も臨地実習は中部地区に限定し、実習期間で外部施設で実習できない場合は、学内実習への切り替え、実習単位を履修できた。</p> <p>実習病院との指導者会議は、対面が難しい場合にはWebでの会議を行い、意見交換をして実習指導者と連携をとった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で感染予防対策をとり工夫して学校運営が行えた。 ・第1看護学科はディプロマ・ポリシー、アドミッションポリシーを作成し方向性が明確になった。浸透させることが課題。 助産学科は卒業時の到達目標周知と自己評価を継続する。 第2看護学科は令和5年度新カリキュラムを申請する際に、3つのポリシーを明示するので、評価をしていく。
③入学・卒業対策について 3.5	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、入学案内のための高等学校訪問は行わず、すべての高校と推薦入学対象校に電話訪問を行い情報収集と入学案内を行った。</p> <p>令和3年度国家試験合格率は100%であった。</p> <p>助産学科は定数確保、第1看護学科は新入生33名(定数35名)、第2看護学科7名(定数20名)と定員割れた。准看護学校の閉校により第2看護学科の受験生が大幅に減じた。今後も状況は変わらないため、入学生の確保は課題である。</p> <p>県内出身者の就職希望者の県内就職率は94.5%。既卒者の相談にのり、県内就業を勧めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学科とも国家試験合格100%と良い成果で、学校の魅力になる。 ・第2看護学科定員割れには閉校等背景の変化がある。第1看護学科の定数確保が重要。
④学生生活への支援について 3.0	<p>学生との面談は定期・適時行い、スクールカウンセラーのカウンセリングは定期と急なカウンセリングを要する場合にも調整し、学生の希望に添い調整できた。</p> <p>修学支援新制度の機関要件を県に申請しR3年度更新が認められた。授業料減免と給付型の奨学金を活用できた。学業継続のための、コロナ禍で政府の示す給付金への申請や学校に紹介のあった奨学金制度を随時提示した。</p> <p>R3年度はコロナワクチン接種が開始され、接種については実習先に折衝し医療従事者枠として3回目までの接種ができ、学生の感染</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの要望に対して柔軟に対応できている。 ・ボランティアはコロナ禍で制限があるが、学校アピールと考えると取組みの検討が必要。

	<p>予防対策と実習要件を整えた。</p> <p>就職支援では、ウェブによる県内就職ガイダンスに参加を案内した。学内講師による面接や小論文・履歴書の書き方指導を実施し支援した。就職・進学試験では県外への往来のある学生もあり、感染対策や健康観察、無料PCR受検するなど、安全に学習が継続できるように支援・調整した。</p> <p>学生自治会は、密をさけるため、オンラインで自治会総会を初めて開いた。自治会活動ではペットボトルの蓋を回収しキャップ運動に参加した。</p> <p>ボランティア委員が中心となり植樹し苗木の管理を実施した。</p>	
⑤管理運営・財政について 3. 7 5	<p>予算の事業執行については遠隔授業への変更などで旅費に不用額が生じたが、減額の補正予算を組み適正に処理できている。</p> <p>個人情報の保護方針等は学生便覧に掲載している。R3年度も新入生を対象として個人情報保護の講義を実施した。新型コロナウイルス感染症対策については、学生用、保護者宛の文書を4回発信した。コロナ禍のため特に感染予防対策の行動が必要となり、寮生活の秩序維持とその必要性について学生・保護者の理解を得ることを目的に、寄宿舎管理規程を令和4年4月1日付で改正した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策については努力し、今後も状況に応じて変更し協力を依頼していく。
⑥施設設備について 3. 6	<p>校舎、寮は老朽化のため複数個所の修繕を行った。遠隔授業ができるように有線の補修、3回線増、ポケットWi-Fi6機購入し、オンライン授業や演習に活用できた。</p> <p>基金を活用し、令和3年度は導尿・浣腸モデル、分娩モデルを購入した。備品やDVD、蔵書は、看護師・助産師養成所の運営に関するガイドラインに示されている機械器具、模型等整備できている。学内実習の際にも活用している。学内実習に対応できるDVDを主に購入した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時代背景に合わせ今後もWiFi環境を整えておく。 ・学生の活用度の高い図書を引き続き整備していく。
⑦教職員の育成について 2. 0	<p>R3年度も新型コロナウイルス感染症対策を優先し、教員研修の企画はできなかったものの、ウェブ開催の学会や学術集会を計画し参加できた。</p> <p>コロナ禍とマンパワー不足もあり、専任教員個々の研修参加が難しい。鳥取県職員の取り組みとして職場人権研修や伝達研修は実施できた。専任教員には子育て世代も多く、人材確保のため、会計年度任用職員募集試験、育休代替職員の募集、初めて看護教員養成コースの採用募集試験が実施され採用につながった。</p> <p>職員が行う研究調査活動にはできていないことは課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の養成は引き続き課題。 ・コロナ禍ではあるが研鑽の意識を持ちウェブ開催の学会や学術集会に参加を継続していく。
⑧広報・地域活動について 3. 7 5	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和3年度もオープンキャンパス、学校祭は中止した。代替手段としてホームページに各学科の特色について動画を作成し掲載した。</p> <p>コロナワクチン職域接種会場として体育館を提供し、会場提供の協力ができた。</p> <p>学生の自治会活動はコロナ禍でできるボランティア活動としてエコキャップ運動に賛同し参加した。</p> <p>昨年度に続き、助産学科では実習の位置づけで、縮小しながらも地域の健康教育を行い、地域貢献を継続できた。</p> <p>毎年7月に学校訪問し入学試験案内していたが、コロナ禍のため、電話訪問に変え情報収集や広報を行った。</p> <p>主たる実習病院の院内研修講師・看護研究支援、実習指導者養成講習会講師の派遣を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスは感染に応じて、ウェブでの開催を検討する。 ・学校アピールは自治会活動やボランティアでも可能。 ・地域の中で展開される実習は貴重なもので、今後も広げてほしい。

※評価項目の点数は、5よい 4ややよい 3普通 2やや不十分 1不十分 の総数を項目数で除した点数。